

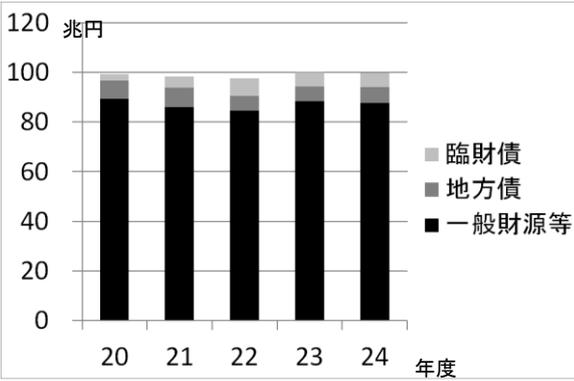
☆ 地方財政の状況

政府は地方における平成 24 年度の歳入歳出状況を発表しました。

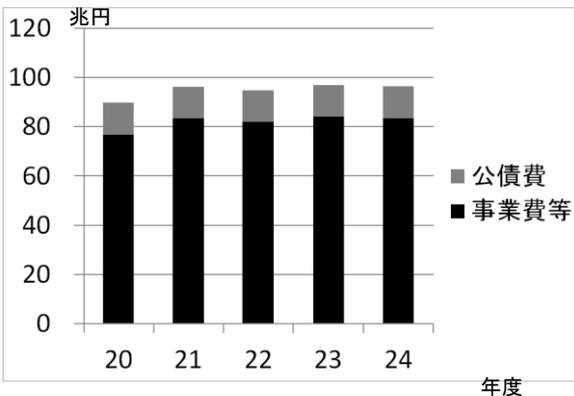
歳入総額は 99 兆 8, 429 億

円で、そのうち借金にあたる臨時財政対策債（臨財債）は 5 兆 8, 158 億円、同じく地方債は 6 兆 4, 221 億円です。借金の合計は 12 兆 2, 379 億円となります。

対して歳出総額は 96 兆 4, 186 億円で借金返済に充てる公債費は 12 兆 8, 824 億円です。



「図1」地方における歳入状況



「図2」地方における歳出状況

		兆円					
		年度	20	21	22	23	24
歳入	臨財債		2.5	4.7	7.1	5.9	5.9
	地方債		7.4	7.7	5.9	5.9	6.4
	総額		99.2	98.4	97.5	100.0	99.8
歳出	公債費		13.1	12.9	12.9	12.9	13.0
	総額		89.7	96.1	94.8	97.0	96.4

「表1」地方における借金と返済の状況

一見、借金するより返済のほうが多く、正常な財政運営がなされているように見えます。

ところが実際は、国が将来返済をしてくれる（？）という臨財債に頼ってしまっています。

最近5年間の状況を「図1」「図2」で示します。「表1」に金額を載せます。

高止まりした臨財債がなければ地方の財政運営はままならないばかりか、返済してもらったという形跡がありません。

そればかりか、臨財債に頼っているのは地方の自立など望む

べくもありません。

このような状況の中、事の善し悪しは別にして、道州制、大阪都構想や中京都構想などが議論されているわけです。

真の行財政改革は多重行政の解消にあると考えます。

ところが、現実にはそれに逆行した、東三河広域連合設置という多重行政を深める動きもあり、とても心配しています。

加えて、国の借金が増加すること大きな要因がここにあることを述べておきます。

☆ 副議長拝命



私は5月の臨時議会において副議長職を拝命しました。

市民の皆様のために、この役職を利用させていただきます。

【選挙の説明】

正副議長選挙は所信表明制をとっており、投票の前に議会議壇上にて役職を得ようとする決意や目標を述べることになっています（10分以内）。

蒲郡市の政策や財政を熟知した人たちの前での演説であり、とても緊張します。

この模様は議会ホームページ上にて公開されています。私の所信表明は以下の通りです。

【所信表明】

副議長選出に際し、所信表明の機会を与えていただき、誠にありがとうございます。いかな

る状況であろうと役職を得ようとする者が所信表明をすることは重要であると考えます。よって、私の思いの一端を述べさせていただきます。

1、議長を補佐することについてです。

第一義的には議長の多岐にわたる公務が円滑に遂行されるよう補佐してまいります。

同時に、蒲郡市議会の代表として常に研鑽に励み、品位と威厳のある議会を保持してまいります。

2、議会運営上の目標です。

議長の具体的な活動報告を、議会運営委員会理事会を通じて行います。

また、議員各位の意見を議長の活動に反映させるため、議長との個人的な対話の機会を設けさせていただきます。

昨年度、皆様と審議会や各種団体への参画を減らすことを

協議し、一定の結論は見えておりますが、本年度は必要な条例改正等を行い、来期からは二元代表制をこれまで以上に明確にします。

それに先立ち、本年度は常任委員会をより活性化させ、常時、常任委員会を開催する体制をとり、継続調査事項や重要事項の調査及び報告を求めるよう取り図ってまいります。

次に、情報公開についてです。決算特別委員会や予算特別委員会の詳細な議事録を公開するなど、より多くの情報を全ての人々に提供してまいります。

加えて、政務活動費の公開を、議会のホームページ上にいたします。

また、現在検討中の議会基本条例・憲章等検討協議会における結論を尊重し、より良い議会運営に努めてまいります。

3、市民の皆様への対応でござ

います。

まず、市民の代表として、一人の市民として議場にいることなど、初心を忘れないようにします。

その上で、市民の皆様に対しては、議会人として公平に接してまいります。

また、議会や市の状況をお伝えするとともに、意見聴取に努めます。

4、市長、当局への対応でございます。

市長、当局に対しては二元代表制を深めることで陥る恐れのある、議会軽視に留意し、情報提供を逐次求めてまいります。

また、個人的な経験則に頼らず、多方面からの情報収集に努め、物事を多面的に捉え、重要案件に対する確かなアドバイスを行えるよう努めます。

その上で、市民の皆様の見解をしっかりと伝えてまいります。

す。

5、広域的な対応について、でございます。

広域的には、市民の利益を第一義的に考え、他市町の議会や諸団体と活発な交流を行ってまいります。

ただ今、議論となっている東三河広域連合につきましては総務委員会の正副委員長をワーキングメンバーとして選出いたします。

広域行政的にも経済的にも政策課題を明確にし、必要ならば連携をとって課題解決や政策提案をしてまいります。

例えば名鉄西尾・蒲郡線支援については今期に入り、議会運営委員会理事会の下に名鉄西尾・蒲郡線存続協議会を設置し、西尾市議会と連携を取っているところです。

新斎場建設や国道23号バイパス建設推進は幸田町議会や豊川市議会、豊橋市議会とも

連携を取っています。

以上のよう東西三河各市町村と連携を取っている事業は多岐にわたります。

鎌田新議長の所信表明に加え、今後、取り組みを深めていかなければならない事業としては、広域観光、名浜道路、大塚・金野線、473号ルート決定、新シブルー計画推進、五輪・パラ五輪ヨットチーム合宿地としてのアピールなどがあります。

蒲郡市民病院についてはJR岡崎駅西に大型総合病院建設計画があると聞き及び、情報収集や市長に政策提言をしなければならぬと考えます。

よって、先に述べた市町村に加え、岡崎市や三河湾沿岸市町、諸団体との連携を深め、蒲郡市議会としましても、必要ならば特別委員会の設置も視野に入れ、積極的に支援をしなければならぬと考えます。

少しでも多くの人脈形成を

し、日々、目まぐるしい状況変化に対応できるように、努めてまいります。

以上、簡単ですが所信表明とさせていただきます。よろしく、ご選任くださいますよう、お願いいたします。

#### ☆ チャレンジングな時代

日本の人口減少が言われて久しいですが、蒲郡市の人口予測は平成41年には73,917人になるとされています。

これは平成25年の比較で7,539人の減少になります。対して高齢者は1,280人増の22,949人とされています。

以上は15年後の統計予測ですが30年後も予測されており、それによりますと蒲郡市は67,000人とされています。その時、新城市は市の形態をとり得ないとされています。

人口減少時代における社会

形成はタフでチャレンジングなものになるでしょう。

例えば、自然減に対抗し社会増を求め、新しい街づくりを目指すことも一つの手法です。公施設マネジメントを的確に行うことも必要です。

特に重要なことは若者の人材育成です。財政に精通し、企画力があり決断力を持つ人材を育てなければなりません。いわゆるタフネゴシエーターです。

私に課された職務であると認識しています。